

カウントダウン新幹線
5
香りを磨く

日の光を反射して淡いあめ色にきらめく小さなガラス瓶。そつと蓋を開けた瞬間、甘く、柔らかな香りが広がった。

富山市の自社農園で無農薬栽培したアヤメの一種「アイリスパリダ」の根茎から、ほんの微量だけ採取できる香気成分を熟成させた「天然の有機香水」。フランスの高級ブランド・シャネルが契約する同国の農園で独占的に栽培していた同花の栽培を富山市で始めて5年。昨年5月には600坪の畑に約1万5000株の青紫色の花が咲き誇り、同12月、待望の香水「アイリスガーデン」が完成した。

富山の湧き水と、世界中から厳選した最高品質の植物を独自製法で融合させた基礎化粧品や香水を製造販売する「アンティアンティ」(富山市)。化学合成の保存料や着色料、香料などを一切使わない「生きた化粧品」で、冷蔵庫で保存する。2010年、日本の化粧品会社として初めて米・農務省の食品基準のオーガニック認証を取得。東京



有機香水について説明する開発者の宮崎さん
(富山市アンティアンティ) =細野登撮影

水と融合させて試作を繰り返した。商品化につき、2000年、美容室を改装して「アンティアンティ」を設立。採算は度外視だったが、問い合わせは国内外から相次いだ。アイリス・パリダの研究を始めたのは、同花から採取できる「どうして香水にしたい」香気成分を含むアイリス精油がシャネルの独占契約で入手困難になつたことがきっかけ。欧洲では伝統的に精製されいたが、口承のため詳しい文

献はなく、研究は「ゼロから」

だった。

同市の畑で育て始め、2年後には咲いたが、花の匂いに精油があり、どうやって抽出するのかも不明。賛同した県工業技術センター研究員の水野渡さん(50)と研究室にこもってあらゆる抽出方法を試しては、数百もの含有成分を分子レベルまで解析した。水

野さんは「途方に暮れたこと

もあった」と振り返る。

研究の結果、根茎に精油があることを突き止め、効率的に抽出する方法も発見。ようやくスタート地点に立った香

水作りは、調香師でもある宮

崎さんの感覚だけが頼りだっ

た。「神経をときすまし」、イリ

ス精油から採取した香気成分

と有機エタノール、ほかの天

然香気成分を何種類もブレン

ドして完成した「アイリスガ

ーデン」は、香った瞬間「脳

まで突き抜ける」、まさに探

し求めていた香りとなつた。

今年は香気成分を完全に解

明できる見込みだ。大量生産

で食品香料などに応用すれば、世界の市場開拓も視野に入

る。

「アイリス・パリダの美しい

青紫色と魅惑の香りで県内を満たしたい。満たせるはずで

す」。宮崎さんはそんな未来

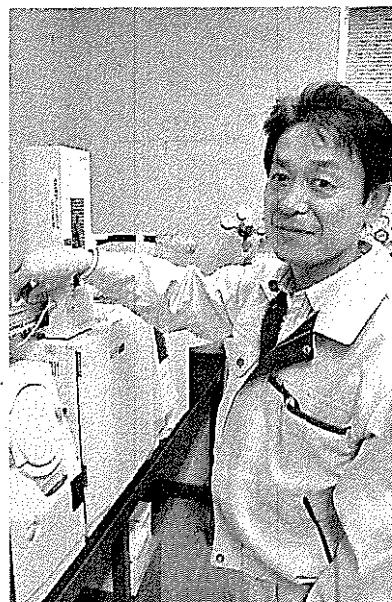
を思い描いている。

湧き水・花

根茎に有機香水の源

青山にも店舗を構えるほか、インターネット販売を通して顧客は海外にも広がる。「アイリスの香りこと、わかれてしまったのです」。穏やかに語る開発者の宮崎真さん(52)は、元美容師。20歳で都内の有名美容室のトップスターイリストになり、雑誌や広告で一流モデルのヘアデザインを手がけた。だが23歳の時、「ライバルとの争いより、目の前の人を美しくしたい」と故郷に戻り美容室を構えた。シャンプーによる手荒れに悩

まされ、「究極にナチュラルな化粧品を作ろう」と注目したのが、富山の湧き水と美しい花々だった。すべて独学だったが、あふのいく植物を取り寄せ、湧き水と融合させて試作を繰り返した。商品化につき、2000年、美容室を改装して「アンティアンティ」を設立。採算は度外視だったが、問い合わせは国内外から相次いだ。アイリス・パリダの研究を始めたのは、同花から採取できることがきつかけ。欧洲では伝統的に精製されいたが、口承のため詳しい文獻はなく、研究は「ゼロから」



精油の分析方法を語る水野さん
(南砺市岩武新の県工業技術センター生活工学研究所で)